

「私が考える沖縄の観光業」

宮古島市立伊良部中学校 2年生 宮国 結菜

私の家では民泊を受け入れています。そのため、県外の人々と触れ合う機会も多くあります。

私達は、自分の住んでいる伊良部島の観光地を案内します。青い海や通り池、満天の星空が輝く場所など。また、沖縄の歴史について語ったり、朝食や夕食を沖縄料理でもてなします。すると、県外から来た人達は、沖縄の伊良部島の自然に触れ、皆喜んでくれます。海ではしゃいだり、星空を見上げながらいろんな事を語り合い、笑い合います。この島でしか食べられない料理を食べて「美味しい」を連発し、おかわりも沢山します。また、沖縄の歴史について話すと、さらに沖縄の島々にも興味をもってくれます。そして最終日になると、「帰りたくない」と言って涙ぐむ人や、この島のことがすごく気に入って、移住してくる人もいます。

そんな旅人達や、島に来てくれる観光客を喜ばせたいと思ったのが、沖縄の観光業をもっと素晴らしいものにしたいと思ったきっかけでした。

現在、沖縄の観光は、沖縄独自の特色をまだまだ活かしきれていないと思います。沖縄に住んでいる私達自身が沖縄の観光についてあまり関心をもっていないからだと思います。リゾート開発によって沖縄最大の魅力である海やサンゴ礁、道路や空き地に不法投棄されたゴミで自然を汚してしまっています。リゾート開発をして物質的なものに力をそそいでいくのではなく、沖縄にしかない、沖縄だけの魅力という視点から観光を見つめ直し、目の前にある自然を大切にしていけることが必要ではないでしょうか。

一番大切な事は、観光に来てくれた人々が「美しい島だ」「また来たい」と思ってくれる事だと思います。そう思ってもらえるようにするには、沖縄の自

然や文化を楽しむと同時に、ありのままの自分になれる、リラックスできる空間を作っていく事も大切です。

沖縄の自然環境や、沖縄の人々の優しさや温かさは、そのままの姿で癒しの空間、そして極上のスローライフとなっていると思います。

沖縄の「チムグクル」は、旅人がのんびりと道草しながら、風の心地良さやゆるやかな時間の流れの中でリラックスできる、とても「優しい空間」を作りだせる最高級のおもてなしだと私は考えます。

大規模な計画によってつくられた施設よりも、私達の目の前にある、あたり前の島の生活に存在する素朴な沖縄特有の、さまざまな「思い」でもてなすのです。海や花などの自然はもちろん、沖縄の南国らしい太陽の光を沢山浴びた野菜や果物、沖縄の島料理、歴史や文化など、沖縄ならではの物語と、触れ合う場所や時間を作る事が、私の目指す「観光」です。

島で生きた人たちが、長い歴史の中で、ずっと求めてきた日々の暮らしの中にある希望は、私達の普段の暮らしの中に引き継がれてきているものだと思います。平成生まれの私たちは、さらにその希望を実現していく使命を持っています。

苦しかった時代に、私達の祖先は、自然を大切に守り、優しい「チムグクル（肝心）」を持ち続けてきたのです。私達が受け継いだこのふるさとの自然や、おじいやおばあからいただいた温かい心は、また私達の次の世代に伝えられていかなければなりません。

その事を知っていくためにも観光によって異なる文化を持つ人々と関わっていくことは大切です。私達も島の心に気づいていける旅ができると思うからです。

繋げよう、「島人の心」。守り続けよう、「美ら島」。